

OSIPP 政策フォーラム 外国人実務家 5 人講演

OSIPP政策フォーラムが開かれ、学外の多様な実務家、活動家らが講演を行った。

第8回：3月8日、デビッド・マックス氏（在日米国大使館 政治部安全保障課長）“Managing the Indispensable U.S - Japan Alliance”

第9回：3月22日、ヴァルター・シュヴィマー氏（欧州評議会（CE）事務総長）“Europe after September 11”

第10回：3月29日、フライツ・アイヒンガー氏（欧州連合（EU）理事会事務局アジア等担当局長）“EUの共通外交・安全保障政策の進展”

第11回：4月1日、テーマ・コンセイカオ氏（東ティモール第2次暫定政府外務副大臣）“東チモールの外交と安全保障の課題と展望”

第12回：4月13日、ケリー・ゲルシャネク氏（Deputy, Policy and International Affairs, U.S. Marine Forces Pacific）“The Marines, U.S. National Security, and the U.S.-Japan Alliance”

永松助手、「人と防災未来センター」研究員に

助手の永松伸吾氏は3月、OSIPPを離任し、「阪神・淡路大震災記念 人

と防災未来センター」（神戸市）に4月より専任研究員として着任した。

永松氏は95年中央大学法学部卒、98年OSIPP前期課程修了、同後期課程に進学後、2000年11月退学、OSIPP助手に採用。専門は災害の公共政策。

後任の助手に坂田氏

坂田圭氏は4月1日、永松伸吾氏の後任としてOSIPP助手に着任した。坂田助手は96年ウロンゴング大学（オーストラリア）文学部社会学科卒。97年OSIPP前期課程を修了し同後期課程に進学。01年9月に同後期課程を退学後、大阪大学社会経済研究所非常勤研究員。専門は応用計量経済学、特に労働政策や労働市場についての実証分析。

OSO、教務4掛などで異動

OSO（OSIPP Secretary's Office）秘書の平野比奈子さん、佐藤みどりさん、加藤美和さんが3月31日付で退職し、4月1日から新たに富田千絵さん、梅園敦子さんが着任した。OSOは引き続き勤務する橋本裕子さんを含めて3人の体制となった。

OSIPPの事務関係を扱う教務第4掛では、原直樹主任が奈良先端科学

修了生らの就職先

2002年3月にOSIPPを修了した院生の主な就職先は以下のとおり（OSIPP事務掛に届けがあったもののみ）。大阪府庁、ニッセイ情報テクノロジー、NTTコミュニケーションズ、松下電器産業（株）、日立製作所、社民党大阪府連合事務局、サイバネットシステム（株）（株）RECOF（レコフ）Accenture（アクセンチュア）、

技術大学院大学へ異動（昇任）、代わって大阪大学学生部学生生活掛より鴨川誓志主任が着任した。また事務補佐員の三崎裕美子さんが退職し、代わって福山春江さんが着任した。ライブラリーでは事務補佐員として新たに西上麻紀さんが着任した。

また、教務第4掛の森本幸男掛長は昨年8月付けで工学部教務課専門員に異動（昇任）、代わって学生部共通教育教務掛から寺嶋文男掛長が着任している。

偶感

研究科長を終えて

この稿の依頼を受け、いざ書こうと2年間を振り返ると、研究科長として何ら実績が挙げられなかったことに愕然としている。就任時には、OSIPPのアイデンティティの確立と、COEになるための研究・教育上の活性化を二つの目標とした。OSIPPには、設立以来法政系と経済系という二つの異文化が存在するが、これをOSIPPという一元的システムへ融合することは大きな課題であった。採用や昇進といった人事面で、ルールの明確化と透明化に着手し、一元化の方向性は定まったと思っている。後者のCOE戦略としては、これまで「OSIPP2010」が策定され、外部評価やアドバイザリーボードから様々な意見を得てきた。任期の一年目は具体的なアクション・プランの策定、二年目にはその実施を目標にした。その結果、例えば全体の活力を高めるためのインフラとして、OSIPPセンターをはじめ、NPO研究、地域経済、IT支援といった三つのセンターが設立された。これらを軸に、今後の研究や情報発信が充実することを期待している。さらに、若手教官や院生の研究助成を目的とする基金を創設し、ささやかではあるが、論文作成や出版を支援する体制が作られた。OSIPPは機関として社会貢献活動が不足していたが、それをいくつか実施した。例えば、京都の小学校への出前講義や、レクチャー・アーカイブスである。ITを使った教育はいまや当たり前であるが、後者ではOSIPPでの講義をデジタル化し、インターネットで配信するものである。また、6月からタイのタマサート大との間で国際遠隔授業が開始される。いま、研究科長として改めて何をしたかと自問すると、OSIPPの将来に向け、些細なことでも着実に実行するという道を拓いたことかなと思っている。（前研究科長・辻正次）